― 母子分離の始まり ―

園長　家田　美里

私達の3月はとても忙しいです。まずは1年間共に遊び成長した我が子を無事に卒園、進級させなければなりません。そしてそれと同時に新年度を迎える為の業務も行います。段々、今、いつ配付の手紙のチェックをしているのか訳がわからなくなっていました。そんな中、卒園式・終業式を終え、提出しなければならない書類作成も終えたと思いきや息つく暇もなく新年度業務のスタートです。運転手さんにペンキを塗ってもらい靴箱やロッカー、おもちゃの修理をしてもらい、講師の先生や添乗員さんに手紙を作ってもらったり時には職員のおうちの方にも手伝ってもらったりとワンチーム、職員総出で新年度業務を行っています。

先日（3月31日）、乙訓地区の園長会がありました。難しい話をしている時に、誰彼ともなく「明日は4月1日だ」と話が出ると、みんなでやることの多さが思い浮かび、はぁーと溜息1つ。そして又会議に戻るのくり返しでした。どこの園も新年度に向けて、楽しみだけど準備はたいへんなんだなぁと思いました。さぁ、準備も全て終え新年度が始まりました。実はこの原稿を書いている時はまだ子ども達の顔を見ていません。しかし、この原稿を読んでいただいている時はもう1ヶ月程たっています。みんなは笑って遊んでいるのでしょうか？それとも泣きながら登園しているのでしょうか？楽しく園で遊んでいるお子さんの保護者の方は一安心。涙が出ていたお子さんの保護者の方は少し心配されているのではないでしょうか。

進級児でもあります。「年中・年少の時には楽しそうに行っていたのになぜ？」と不安が顔に出ていませんか？子ども達にとって「進級する」という事は大人が思っている以上にどきどきする事なのです。名札の色が変わり、クラスの場所が変わり、バスコースが変わるというそれだけの事かもしれません。しかし、彼らにとっては大きな変化です。少し緊張の日があるかもしれません。ですが、1年・2年とむらさきで過ごしています。その緊張もすぐに程よい緊張に変わり乗り越えてしまいます。「あれ？そう言えば4月は行きたくないって言ってたか」とその姿を忘れてしまう程、目一杯遊ぶ様になるので安心してください。

さて、一方の新入園児さんはそんな訳にはいきません。初めて保護者の方と離れて1人での社会生活の始まりです。涙が出て当たり前！と思ってください。「何故うちの子だけ…」などと思っていませんか？今はお父さん、お母さんと離れる事が寂しいだけです。離れる時は涙が出てしまいますが、その時だけですぐに涙が止まり好きな遊びが始まります。家へ帰る頃には笑顔で帰っているはず。私達は寂しいという思いを我慢せずに出せているので「泣けてよかった」と思います。保護者の方から見たら、我が子が泣いている姿なんて見たくないですよね。そんな思いから「行きたくないと言っているので休みます」と休みがちにならない様にしてほしいです。保護者の方の不安はすぐに伝わってしまいます。そんな時には笑顔を忘れずに。ケガをしたらどうしよう…、友だちとケンカしたらどうしよう…と心配ばかりしていたら保護者の方も心が疲れてしまいますよ。子ども達は毎日、幼稚園で沢山の事を体験し、吸収しています。昨日は出来なかった事が今日は少しできるようになり…を繰り返し、気がつけば出来るようになります。

今こそ母子分離の始まりです。母子分離は、子どもの成長過程でとても重要な事です。いつまでも私達が助ける事はできません。自分で考え行動できるように、そのチャンスを奪わないようにしましょう。これから1つ山にぶつかったら、一緒に考え見守っていけたらいいなと思います。いつも笑顔でいましょうね。と、こんな事を言っている私も、「泣いて来るかな？」「大丈夫かな？」等と思ってしまいます。保護者の方にあまり大きな事は言えませんが、どうなるのか楽しみにしたいと思います。この原稿がむらさき新聞になる頃には「美里先生は何を書いているんだ？」と言ってしまう程、みんなが楽しんでくれていたらいいな。

